

町内外の人が集まる

NAKA 110th

なかい誕生110年

平成30年 竹灯笼の夕べ

5月26日(土)、27日(日)開催

竹と光が調和する夕べ

厳島湿生公園「竹灯笼の夕べ」実行委員会 会長

おのうえ ふみお
尾上文男さん

毎年5月に開催している、「竹灯笼の夕べ」は、なかい誕生110年記念事業として、今年は2日間行います。

当日は約3,000個の竹灯笼に火が灯され、夜の厳島湿生公園は幽玄な空気につつまれます。このイベントが行われることになった理由の1つが町の竹林再生で、竹灯笼は中井町の竹を使用しています。

今年で13回目の開催となりますが、毎年準備から本番にかかる作業は実行委員会と町が協働で行っており、イベントが開催されるおよそ1か月前から竹の切り出しを始め、竹灯笼やオブジェ作りという作業をほぼ毎日行っています。

2日間の実施は初の試み。会長の尾上さんに、話をお伺いしました。

※イベントの詳細については、チラシや町ホームページをご覧ください。

インタビュー Q 町からの質問 尾上さんに伺いました。

尾上さんにとって

「厳島湿生公園」は

① 私が小さい頃、厳島湿生公園はまだ今のように整備されてなく、葛川のきれいな水が流れ込んでいたので、朝は顔を洗ったり、夏は水遊びをしていました。鰻を捕まえたこともあるんですよ。

平成15年に公園として整備されて、町内外から人の集まる場所となりました。

竹灯籠で使用する竹は

② 毎年町内の竹林を順番に整備して、今年の竹灯籠の夕べには五所宮と藤沢の竹林整備で出た竹を使用します。

使用する竹は、真竹と孟宗竹の2種類ですが、灯籠やオブジェの大半は孟宗竹で作成しています。

毎年竹灯籠

の夕べで販売

する「孟宗汁」

は、味噌汁に

孟宗竹の子、



竹灯籠の夕べに

携わる方々は

③ 町内の「厳島ホテルの会」「弁天さんの会」や地元自治会、氏子総代などが「厳島湿生公園活性化事業連絡会」として、主に竹灯籠の夕べ、あかりの祭典に携わっています。当日出店する模擬店は、北窪自治会や町商工会に参加してもらっています。様々な人が携わるので賑わいが生まれ、地域の親睦となっています。

2日間開催する意気込み

④ せっかくの2日間開催なので、今までの延長線として行うのではなく、1日目と2日目で違うことをやり、来場者の皆さんに楽しんでもらいたいです。

竹灯籠の夕べが地元だけでなく、町全体のお祭りとして、町内外の来場者から「すばらしい」と言ってもらえる2日間になりたいです。

「竹灯籠の夕べ」はこのように作られます！



① 竹林整備を実施
竹を公園へ運搬



③ 公園全体に竹灯籠・オブジェを設置



② 公園で竹灯籠・オブジェを作成



④ イベント開始

竹灯籠の夕べ終了後、
使用した竹は...

汚れているものは粉碎して廃棄しますが

きれいなものは竹炭にするなど、
再利用されています。